

令和4年度事業計画（案）

新型コロナウイルス感染症感染拡大の収束が見通せない状況が続いていることから、感染防止対策には最大限留意するとともに、事業の開催時期や実施方法等については柔軟かつ臨機応変に対応し、極力、事業効果が確保されるように努めるものとする。

また、海洋プラスチックやマイクロプラスチックの問題への関心が高まっており、企業や学校におけるSDGsの取組みが広がっていることなどを背景として、他団体や企業、学校、マスメディア等との連携を積極的に進めていく。

さらに、今般取りまとめられた「新しい活動指針（案）」に基づき、推進体制を抜本的に見直して法人移行に向けた検討を進めるとともに、組織基盤の強化及び財務基盤の拡充に取り組んでいく。

将来を担う世代の育成《教育・啓発》

1 身近な川や水辺の健康診断（別紙募集チラシ参照）

(1) 実施期間

世界環境デーに合わせ6月4日～12日の原則の実施期間は設けるものの、新型コロナウイルス感染症や天候不順などの状況に対応して、10月21日までとし、安全に実施できるよう期間を延長。

(2) 参加申し込みは、原則の調査期間に合わせ、5月20日の締め切りを設けるが、実施期間中随時申し込みを受け付ける。

(3) 実施検討会を4月20日に開催し、実施体制など詳細について検討・決定。

参加者は例年同様に国・県の関係行政機関、地域部会、大学、地域で環境保全活動に携わっている方々。Web参加も可能とし開催。

(4) 調査補助指導者の派遣

新規参加者や学校などで参加する場合に、要望があれば、地域部会や会員専門機関に協力をいただき、事前講習や現地調査補助を積極的に行う。

(5) 水生生物調査

主催の山形県環境科学研究センターと連携し、希望グループについては、「身近な川や水辺の健康診断」との同時申込可能として募集。

(6) 透視度計

例年同様、各地域の貸出担当者に協力をいただき、参加者からの申し込みにより貸し出す。

(7) CODについては、国土交通省と市民団体が連携して実施する「身近な水環境の全国一斉調査」の一環として50地点分の器材の提供を受け、調査結果50地点分を提出予定。

(8) 調査結果集計は引き続き、公益社団法人山形県水質保全協会の協力を得て「水辺診断書」としてレーダーチャートを作成する。

2 スポGOMI大会の開催

海岸漂着物問題対策の普及啓発の一環として、市町村や地域の団体等と連携して開催する。

リアル開催のほか、スマートフォン等の活用も想定し、広域での同時開催により内陸域でも海ごみ問題を身近に感じる機会を提供する。

スポGOMI大会と啓発資材の活用やワークショップ等と組み合わせることにより、SDGsの取組み、企業のCSR活動、学校や団体、企業が行う環境ツアーとして、環境教育プログラムを提案する。

(1) 庄内の地域団体及びNPO法人与連携し、学校及び旅行会社にプログラムを提案。(3月)

(2) 現在予定している大会（別紙資料参照）

(3) 企業や団体との連携強化

スポGOMI大会等へのボランティア参加、運営参画を推進する。

株式会社JTB、ゆらまちつく戦略会議、(株)安藤・間、三郷堰土地改良区、
NPO法人公益のふるさと創り鶴岡、NPO法人パートナーシップオフィスなど

3 海岸漂着物やマイクロプラスチック問題等の啓発（別紙資料参照）

(1) 海岸漂着物問題普及啓発出前講座

「身近な川や水辺の健康診断」等の実施と併せ、小中学生等に対して出前講座を実施する。

(2) ゴミ回収体験やパネルやゴミ標本を活用した環境教育プログラムの推進

環境教育のためのゴミ標本や資材、オンラインやYouTubeを活用した啓発、啓発資材の貸出し、出張やオンラインでの説明を行う。

スポGOMI大会、クリーンアップや水辺の健康診断等との組み合わせによる環境教育プログラムを提案する。

(3) 海と日本プロジェクト in 山形実行委員会、海と日本プロジェクトとの連携、協力事業

スポGOMI甲子園、山形の海洋

ごみを考える日、モンテディオ山形等での啓発、海ごみカフェ、SNSや動画を活用した啓発

(4) ホームページ「最上川環境マップ」の整備

アプリへの組入れも検討する。

(5) SDGs 関連事業

5月 山形県立図書館「図書館からSDGs」ワークショップ

山形大学基盤共有教育YU empower with SDGs ～ローカルSDGsの実践～

6月 山形県青年の家「SDGs×スポGOMI」

7月 ユトリアグループ 令和4年度山の日プレ企画 SDGs体験

蔵王クリーン作戦（調整中）

10月 山形新聞庄内地区振興会 SDGs海岸クリーン作戦（名称調整中）

4 報告書「笑顔を書す山形の川」

(1) 「身近な川や水辺の健康診断」、「美しいやまがたクリーンアップ・キャンペーン」の結果報告を作成し、ホームページにデジタルブックとして掲載し、Web上で報告する。

(2) 「身近な川や水辺の健康診断」については、全県の結果を1枚の河川地図上に表した概要版を作成印刷し、実施団体や学校等へ配布する。

5 美しい山形・最上川サポーター（仮称）の創設

(1) 趣旨

若い世代を中心に、最上川フォーラムが推進する『豊かな自然環境と文化が息づく魅力あふれる山形づくり』の活動に参加する方々をサポーターとして確保し、活動のすそ野を広げるとともに、将来にわたって継続的に育成していく。

(2) 制度設計の継続

懸案となっているサポーター登録システムの開発について、開発経費の財源、セキュリティ対策、既存SNSの活用可能性等の課題に加え、「新しい活動指針（案）」に基づく組織基盤の強化策（法人移行の検討と会員区分の見直しなど）と整合を図りながら包括的に制度設計の検討を進める。

1 美しいやまがたクリーンアップ・キャンペーン

- (1) 実施期間 通年募集とする。
- (2) 実施経費の支援 1グループ当たり一律3千円の支援を想定。
- (3) イベントとのコラボレーション
スポGOMI大会や海岸漂着物問題普及啓発事業との併催を推進する。
- (4) クリーンアップ全国事務局や全国川ごみネットワーク主催の「全国水辺のごみ調査」に10月末までのデータを提供する。

2 散乱ごみの発生抑制対策の推進

- (1) 商業施設等での海岸漂着物問題の普及啓発の実施
会場を屋外にしてパネルや見本の展示を行うなど、新型コロナウイルス感染症対策をとった実施内容を検討する。マルシェ等のイベントにも積極的に出展し、ゴミ箱の近くで展示を行い、海洋へのゴミの流出削減、エコバッグやパッケージの持参を呼びかける。
- (2) 現在予定している活動（別紙資料参照、3と同じ）
- (3) 令和3年度作成した動画や啓発資材の活用
- (4) 山形県海岸漂着物問題推進協議会への参画
 - ① 山形県海岸漂着物対策推進協議会の構成団体として、総会等に出席し提案等を行っていく。
 - ② 陸域の河川における散乱ごみのモニタリング体制構築等に向けた検討作業に参加する。
(海と日本プロジェクト 特定非営利活動法人パートナーシップオフィス受託事業)
- (5) 川ごみ団体との連携

3 他団体や企業との連携

- (1) 「海と日本プロジェクト」との連携 内陸域での啓発イベントの開催等（前述）
- (2) 他団体や企業、教育機関、マスメディア等とのコラボ事業に積極的に対応していく

4 広報啓発

- (1) 環境展のブースへの出展等の機会を活用し、ゴミ発生源対策や令和2、3年度に作成した湧水利活用の動画等を中心として、当フォーラムの活動の広報、環境保全の啓発に取り組む。
- (2) 令和3年度から引き続き映画「マイクロプラスチック・ストーリー ～ぼくらが作る2050年～」を上映する会事務局として活動する。上映に併せ、海岸漂着物標本、啓発資料展示、説明等を行う。修学旅行等でのスポGOMI、クリーンアップ活動と併せての上映を行う。
- (3) SNSを活用した啓発を進めるとともに、フォロワー数増加のための仕掛け等を検討する。

1 最上川夢の桜街道づくり

- (1) 全市町村及び継続団体に対し、桜の維持管理等の要望調査を行い、樹木医を派遣する。
- (2) 桜守育成のための研修会「桜守養成講座」、桜を地域資源として活かすための研修会等を地域部会と連携して開催する。
緑の環境づくり推進事業（やまがた森林と緑の推進機構）助成金申請中。
現在予定している活動 鶴岡市2件、金山町
- (3) 県内の桜の名所や地域で愛されている桜をSNSで紹介する「～夢の桜街道～写真と灯りの展示会」巡回展示では、桜守の活動紹介も行い、最上川・山形の桜の魅力を広く発信していく。

2 桜や水辺の写真を活用した情報発信

- (1) これまでの写真コンテスト入賞作品の貸出しを希望者に対して随時行う。
- (2) 「～夢の桜街道～写真と灯りの展示会」
全市町村に展示箇所の照会を行い、令和4年3月下旬から市町村の協力を得て巡回。
桜の維持管理事業の紹介も兼ねた展示を行う。（前述）
- (3) 山形県立図書館ロビーでの令和4年壁面展示に協力し前年度から引き続き写真を提供。
1階にて連携企画「サクラ咲く図書館」3月29日(火)～4月30日(土)

3 湧水活用事業

「里の名水・やまがた百選」・「環境省選定」湧水を地域の環境資産として着目し、製作したプロモーション動画やポストカード等を活用する。県との連携による県内での展示等により、湧水の活用促進を図り、周辺環境も含めた豊かな自然を保全し、地域の活性化につなげる取組みを支援する。

これまでのアンケートの回答から、活用方法を探っていく。

- (1) 湧水の魅力を多くの人々に知ってもらうため、動画製作による情報発信、現地を訪ねる参加型イベントを実施する。→参加型イベントは令和3年度中止となったため、令和4年度の開催を目指す。
- (2) 各種イベント会場でのプロモーションの実施、アンケートによるリサーチとフィードバックを行い、地域活性化策の検討に活用する。

4 地域おこしの紙芝居作成

- (1) 海岸漂着物紙芝居（令和3年度山形県視聴覚教材コンクール入賞）の上演、貸出しの積極的な発信を行い、動画の活用を促進する。
- (2) 2019年度からの継続した取組みとして、村山・置賜地域部会の連携により、最上川にまつわる紙芝居製作を進める（最上川229ネットワーク（白鷹町）と連携）。
大石田町の紙芝居製作中。
- (3) 紙芝居製作のための取材、企画を村山・置賜地域部会連携により進める（村山市）。
- (4) これまで製作した紙芝居について、第26回水シンポジウム in やまがたでの展示や発表を検討。

地域部会

◇置賜地域部会

- (1) 村山地域部会と連携した紙芝居づくり (4 地域おこしの紙芝居作成 (2) 参照)
- (2) 「身近な川や水辺の健康診断」の現地調査サポート等の実施協力
- (3) 「スポGOMI大会」への協力
- (4) 環境講座等の開催 (最上川229ネットワーク (白鷹町) と連携)

◇村山地域部会

- (1) 「～夢の桜街道～写真と灯りの展示会」協力
- (2) 「スポGOMI大会」への協力
- (3) 「やまがた環境展」出展の際のスタッフ協力
- (4) 「身近な川や水辺の健康診断」の現地調査サポート等の実施協力
- (5) 置賜地域部会と連携した紙芝居づくり (4 地域おこしの紙芝居作成 (2) 参照)
- (6) 第26回水シンポジウム2022inやまがたの運営協力
- (7) 内陸域での海岸漂着物問題啓発普及啓発イベントの検討

◇最上地域部会

- (1) 「もがみの湧水調査会」
山形県で実施している「里の名水山形百選」への応募の働きかけを行う。
- (2) 「スポGOMI大会」への協力、現地団体との連携
- (3) 桜を守り育てる研修会開催、現地団体との連携
- (4) 「身近な川や水辺の健康診断」の現地調査サポート等の実施協力

◇庄内地域部会

- (1) 「身近な川や水辺の健康診断」の現地調査サポート等の実施協力
- (2) 「スポGOMI大会」の開催、小学校対象、修学旅行対応など
- (3) 「桜の育成維持管理研修会」現地団体との連携
地域の要望に沿った形で開催を検討する。
- (4) 内川学関連事業の開催
- (5) 第26回水シンポジウム2022inやまがたの展示協力

全 体

1 総会・運営委員会

通常総会 (6月29日)

運営委員会 (6月2日、11月、3月)

※ これまでの合同部会に代わる意見集約機会を検討する。

2 会員拡大の取組み

(1) 個人会員の募集

引き続き、県内金融機関並びに県、市町村の協力を得て、会員募集キャンペーンを実施する。

(2) 法人会員の募集

- ① 商工団体や法人団体等に対する訪問及びプレゼンテーションについて、新型コロナウイルス感染症対策の状況等を見極めながら、実施に向けて調整する。
- ② 引き続き、法人及び団体の会員に対し、会費増額（一口3千円を1万円以上に増額）の要請を行っていく。

(3) 勧誘ツールの整備

最上川フォーラムへの入会や活動参加、支援につながるPRツールを整備する。

3 新しい活動指針（案）に基づく運営基盤の強化

運営基盤強化に向けた取組みの具体化に向け検討を進める

- (1) 法人移行の検討
- (2) 会員区分と会費の見直し
- (3) 新たな部会の設置
- (4) 地域部会の再構築 など

4 「第26回水シンポジウム2022inやまがた」の開催

本県を会場に開催される「水シンポジウム」（土木学会水工学委員会主催）について、最上川フォーラムの20周年事業に位置づけ、実行委員会を構成し企画及び開催準備を進める。

【期日】 令和4年7月21日（木）・22日（金）

【場所】 （1日目）山形テルサ、（2日目）現地見学会（最上川、最上小国川など）

【メインテーマ】

未来へ引き継ぐ母なる最上川

～地球的視野に立ち流域全体で環境・文化・暮らしを守る～

【最上川フォーラムの役割】

① 第2分科会の運営

テーマ案『最上川流域の環境保全・文化継承活動の新たな展開』

コーディネータ 柴田洋雄 山形大学名誉教授、美しい山形・最上川フォーラム会長

パネリスト 佐藤五郎 最上川リバーツーリズムネットワーク代表理事

相原久生 酒田市立資料館調査員

今野正昭 最上川229ネットワーク共同代表

星野高宏 三郷堰土地改良区事務局長

② 市民団体等による発表の支援

1) 黒滝会様 テーマ『最上川の自然と遊ぶ ― おらんだのジオパーク ― 』

2) 特定非営利活動法人公益のふるさと創り鶴岡 様

テーマ『鶴岡市内川の環境美化活動及び河川環境保全に向けたゴミ排出削減
キャンペーンについて』

③ 会場展示の調整

④ 実行委員会の事務局として会計経理

その他 委託事業・助成事業・連携事業など

1 委託事業・助成事業・連携事業など

(1) 山形県委託事業

- ・事業名：令和4年度川～海をつなぐ「美しい元気な山形づくり」業務 3,800千円
スポGOMI 大会開催、海岸漂着物問題普及啓発出張講座、商業施設等での海岸漂着物問題の普及啓発の実施

- (2) 最上川上流河川清掃活動（国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所） 396千円
・最上川上流8か所での清掃活動

- (3) 「第26回水シンポジウム2022 in やまがた」開催運営支援委託事業 2,139千円
・「第26回水シンポジウム2022 in やまがた」開催運営支援

- (4) 緑の環境づくり推進事業（公益財団法人やまがた森林と緑の推進機構） 100千円
・桜の維持管理研修会の開催

- (5) 山形県海岸漂着物対策推進協議会への参加

- (6) 全国川ごみネットワークとの連携

- (7) 「海と日本プロジェクト」との連携
・テレビユー山形（株） 海ゴミバスターズ in 山形実行委員会 Change for the blue
海岸漂着物問題啓発事業

- (8) 国、県や企業・団体とのコラボレーション事業など連携の強化
普及啓発活動の推進等

- (9) 運営体制整備事業費補助金（山形県） 4,495千円
事務局長設置費

- (10) 基金等への応募や寄付などの獲得に努め、その内容に応じた事業を展開する。
・水環境保全助成事業（全国浄化槽団体連合会）※申請中
身近な川や水辺の健康診断の実施

※敬称略